

文京区発！自然観察会『小石川植物園 秋の観察会』報告

わくわくがいっぱい…秋の自然はカラフルなびっくり箱

開催日：平成19年11月24日（土）10時～12時30分

場 所：東京大学小石川植物園

参加者：小学生 14名、保護者 10名、

ファミリー・サポーター：2名、NPO スタッフ：2名、

NACOT 指導員： 田和(恭)、松田、町田、今徳、鈴木、柏木、飯山、田邊

《 小石川植物園、みんなあつまれ子供の広場、第27回プログラムに参加して 》

≫ “ゆで卵” 指導員がご報告します

はじめまして。生みたて卵の自然観察指導員、柏木です。この夏、板橋の研修会で指導員登録しました。主催者、参加者の熱気に加え、35度を超える猛暑の中、炎天下の川原での実習とあって、卵もすっかりほかほかゆで卵になってしまいました。

≫ 元気に集まった子供たち

さて、当日は抜けるような青空。秋たけなわの小石川植物園に元気に集まった子供たち、保護者たち。まずはアイスブレーキング。どんぐりとくまでお友達気分が盛り上がりました。私は町田さんグループに同行。町田さんのびっくり箱（彼が収集した、種や実がぎっしり入ったトートバッグです）を携えて、助手さんです。

≫ びっくり！びっくり！の連続、

種や実の不思議

町田さんが木をゆすると、あらあら不思議、ヘリコプターのようにくるくる回る種がおちてくるよ。それはカジカエデやイロハモミジ。こっちはまるで竹とんぼみたいまわるよ。それはボダイジュの種。ひらひら風に乗る、フクロミモクゲンジ、花や鈴のように見えるのは種の固まりで、ユリノキやスズ



カケノキ……。その場にある植物に加え、町田さんの手元からは面白い形の種、大きな種、きれいな色の実、食べられる実などが次から次へ出てきます。町田さんはまるで魔法使い。

≫ 子供たちは夢中に

町田さんにしっかりくっついて歩く子供。夢中になって地面の種を拾う子供。すっかり種や実に魅せられてしまったようです。最後は収集した木の葉や実で、コラージュ作成。画用紙に思い思いに張りつけて完成。作品と一緒に記念写真をとりました。みんなの顔がはにかみながらも誇らしそうでした。あっという間の充実の2時間でした。

≫ ゆで卵の感想

さて、新米の私が、申し上げるのは恐縮ですが、段取りや計画の緻密さ、準備の濃さ、内容の構成のバランス、導入からへの流れ、いずれも高いレベルと質であると思いました。企画・実施には大変なエネルギーが要るのではないのでしょうか。子供たちの自然教育は社会にとっても重要課題。それを理想的な形で実現していただいていることに、感謝と尊敬の念を持ちました。もっとたくさんの子供たちがこのよき機会に接してくれたらと切に思いました。

